

今こそ現場にオンラインを導入しよう！

「おはよう！元気だった？」

オンライン朝の会を始めた初日、約2か月ぶりに会う子どもたちの顔を見て、涙が出そうになりました。

この時に、「リアルにはない、オンラインの良さがある」と強く感じました。普段は発言しない子どもが、チャットをたくさん書いていたり、全員が前を向いているからこそ、わかることがあったり…。

5月の休校中に行った朝の会は、たった数回のことでしたが、私にとって、かけがえのない時間になりました。それは、オンライン授業を行った全国の先生方が感じられたことなのではないかと思います。

新型コロナウイルスによる突然の休校で、学校現場における情報化の遅れがクローズアップされることになりました。

今は日常を取り戻しつつありますが、リアルとオンラインのハイブリット学習をしている公立学校は、どれだけあるでしょうか？ 結局、従来の学習の在り方に戻ってはいないでしょうか？

今年から施行される新学習指導要領では、「予測困難な時代に生きる子どもたち」という文言がありますが、コロナの影響で、すでに私たちが予測困難な時代を生きています。

正解のない時代。子どもたちのために、今までやったことのないことも、「まずやってみる」ことが大切です。「でも〇〇じゃない？」「こうなったらどうしよう？」とためらっているだけでは、何も前に進まないのです。オンライン化は、まさにそうです。

GIGAスクール構想が前倒しになった背景もあり、今後はますます「オンライン化」が必須になります。本書を参考に、「まずやってみる」精神が全国の先生方に広がったらうれしいです。

庄子 寛之

子どものほうがオンラインを楽しんでいる！

今、日本中の学校でオンライン化が少しずつ進められています。そこに参加している子どもたちの表情は明るいです。なぜ明るいのでしょうか。しばらく友だちに会えていなかったから、オンラインでも会えるから、家にいながら友だちと会話できるから、今までとは違う学び方にワクワクしているから。理由はいろいろ考えられます。

我々大人も今回のコロナウイルスがきっかけで、在宅ワークが進み、日本中のいろいろな人と出会い、学ぶきっかけが増えたという人も多いのではないでしょうか。

つまり、ドラえもんの「どこでもドア」を半分手に入れたのです。小さい頃、夢にまで見た「どこでもドア」を手に入れたのであれば、使わない手はありません。もちろんオフラインでしか感じられないこともたくさんあると思います。私もできることなら、子どもたちと会って話したいし、グラウンドでサッカーもしたいです。

けれども、どちらかに偏ることなく、同時並行で進めていくことで、今回のような事態に陥ったときに、困惑したり学びを止めたりすることを防げます。

コロナが収まったから以前のようなスタイルに戻そうでは、今回苦労してみんなさんが手に入れたものが無駄になってしまいます。オンライン化しておくことで、不登校の子どもも一緒に学ぶことができたり、病気で学校に行けない子どもも参加できたりするのです。

それが実現できたときに、ダイバーシティな学校、インクルーシブな環境が整ったといえるのではないでしょうか。この本をきっかけにみなさんのが一步前進することを心より願っています。

深見 太一

★ 第1章 オンライン導入を進めよう！ ★

1 「オンライン朝の会」実施までの道のり	10
2 「オンライン導入」を提案してみよう	12
3 「オンライン導入」を説明しよう	14
4 「オンライン朝の会」を実施しよう	16
5 「オンライン朝の会」で朝食アンケート	18
6 「オンライン帰りの会」でビデオレターリレー	20
コラム オンライン学習で使えるロイロノート	24

★ 第2章 まずはオンラインに慣れる！ 雰囲気・関係のつくり方 ★

1 オンラインで、和やかな雰囲気をつくろう	26
2 オンラインでの場づくりの会話例	30
3 オンラインでのルールの確認	32
コラム 日頃の学級経営を大切に	34

★ 第3章 導入に最適！ 教師主導のオンラインあそび ★

1 オンラインあそびの特徴	36
準備なしすぐできる！	
2 あとだしジャンケン	38
3 反応拍手	40
4 色を集めよう！	42
5 忍者ゲーム	44
雰囲気づくりに最適！	
6 ナンバーライティング	46
7 おめでとうシャワー	48
8 キャンプファイヤー	50
9 大切なものを持ってきて	52
10 漢字bingo	54
11 イントロクイズ	56
コラム オンラインとオフラインのちがい	58

第4章 子どものつながりをつくる! オンラインあそび

子ども同士をつなげる!

- 1 もぐらたたき 60
- 2 ジエスチャーゲーム 62
- 3 聖徳太子ゲーム 64
- 4 フリップ大喜利 66
- 5 ほめちぎルーム 68
- 6 何を食べているかな? 70

難しいけどさらに仲が深まる!

- 7 赤青背景でせ～の、ドン! 72
- 8 好きな YouTuber 紹介 74
- 9 みんなでお絵かき 76
- 10 こたえのない絵かき歌 78
- 11 Google Earth でバーチャル旅行 80
- 12 ブレイクアウトルーム脱出ゲーム 82
- 13 ブレイクアウトルームかくれんぼ 84
- コラム オンライン学級づくりの良さ 86

第5章 オンラインができる! 授業参観や学校行事

- 1 行事のオンライン化 88
- 2 オンラインができる研究発表会 90
- 3 オンライン授業参観 92
- 4 オンライン学級通信 94
- 5 オンライン修学旅行・宿泊体験学習 96
- 6 Zoom 保護者会 98
- 7 オンライン『学び合い』 100
- 8 オンラインクラス会議 102
- コラム オンラインでは双方向のやりとりを 104

第6章 オンラインで 学びを広げた事例

- 1 ある日のオンライン学習の様子 106
- 2 子どもの主体性を育てるプラットフォームづくり 108
- 3 オンラインで行う理科実験 110
- 4 オンライン掲示板 112
- 5 キッキンサイエンスのすすめ 114
- コラム YouTube や Google Map から学びへ 116

第7章 オンライン学級づくりの Q&A

- 1 オンライン授業が長引いてしまう 118
- 2 オンラインだとうまく発言できない子どもがいる 120
- 3 オンラインでのいたずら 122
- 4 ネットトラブル 124
- 5 子どもがつまらなそうに参加している 126
- 6 オンラインができる子とできない子の溝ができる 128
- 7 オンラインで友だちともめてしまう 130
- 8 保護者からクレームがきた 132

2

「オンライン導入」を提案してみよう

勇気を出して管理職に提案してみよう

オンライン導入の際の最初の壁は、管理職への提案です。

まずは提案の場を設定するために、管理職の都合を聞いて日時を決めます。

それと同時に資料の作成もていきます。この時に気を付けたいのは、やりたいことをただ羅列して示さないようにすることです。

やりたいことを前面に押し出すことは大切ですが、一方で、子どもにとって本当に価値のある取り組みなのか、保護者の負担等に配慮しているのかといった多面的な視点も大切だからです。

学校とその教育活動をいつも俯瞰的に見守っている管理職ですから、さまざまな視点を考慮した提案こそ必要になります。

提案の際に大切にしたい7つの視点

以下の視点を大切にしながら提案文書を作成しました。

- ① 学びを保障するために学校として何ができるのか
- ② そのために必要なものは何か（物品購入の必要性や費用等）
- ③ 子どもと保護者と教師は何をすればよいか
- ④ 子どもと保護者と教師への負担はないか
- ⑤ それぞれにある程度の負担があったとしても、それに勝る教育

効果はあるか

- ⑥ 負担を軽くするための工夫や配慮を考えているか
- ⑦ 実現に向けたスケジュール

Zoomとロイロノートの導入決定！

そして提案の結果、本校では、朝の会は「Zoom」、オンライン学習はクラウド型授業支援アプリ「ロイロノート」を活用することになりました。

この後は時間を空けず、教職員への趣旨説明とアプリ操作のミニ講習会を実施しました。操作に手間取る職員もいましたが、全員で同じ方向を向くよい機会となりました。提案の準備、管理職への提案、職員への周知まで、この間約10日。子どもたちの学びを保障するために、スピードをもって取り組みました。

職員への趣旨説明の資料

Zoomの利用について（提案）

1 Zoomとは

オンラインweb会議ツール。いつでも、どこでも、どんな端末からでもweb会議を実現するクラウドサービス（ただし、インターネットに接続していることが条件となる）。

2 臨時休校及び学級閉鎖時の活用のしかた

対象	内容	活用場面例	備考
がる 子ど どと つな	健康 観察 授業	○朝の会及び健康観察はZoomで行う。 ○授業はロイロノートで行う。 ※授業配信の方法は様々なパターンがあるが、具体的な例は別紙資料を参照する。	各家庭の通信環境によっては、インターネットの通信容量に限りがある。そこで、Zoomとロイロノートを併用することを基本方針とする。
職員 で つな がる	校務 研究	<input type="checkbox"/> 職員朝会 <input type="checkbox"/> 職員打合せ <input type="checkbox"/> 学年部会 <input type="checkbox"/> その他、3名以上で検討をしたい時 <input type="checkbox"/> チームでの検討（研究計画検討、指導案検討） <input type="checkbox"/> 研究部検討	資料は画面共有機能を使って提示する。

（椎井 慎太郎）

1

オンラインで、 和やかな雰囲気を つくろう

自分の顔をちゃんと見よう（表情編）

オンラインの始まりのとき、ドキドキしませんか？

子どもたちもきっと、同じような気持ちでいるでしょう。それは、子どもたちを周りで支えて、オンラインのサポートをしている保護者の方も同じかもしれません。初めてのことをしているときは、緊張と期待が半々のような状態になっています。

まずは、「安心できる場所」なんだと思ってもらいましょう！

Zoomを使うと、参加者である子どもたちの顔をよく見ることができます、実は、自分の顔もよく見ることができます。

「話しているとき、自分はどんな表情で話しているのかな？」「子どもたちが発言しているとき、自分はどんな表情で聞いているのかな？」と普段は知ることができない自分の表情を、客観的に映してくれる道具でもあります。

子どもたちに、優しく話しかけながらも、柔軟でこやかな表情ができるのかどうかを確認し、改善しておくことは、オンラインでない場面でも、とても大切なことだと思いました。

どんな表情の先生が前に立っていたら、自分は安心しますか？ 自問自答しながら、自分の表情をよく見るといいと思います。

どんな声になっているかな？（声編）

次に大事になってくるのは、声です。声は、自分で聞こえている声と、相手に聞こえている声が違います。

私が初めて自分の声を聞いたときには自分の声と認識できませんでした。Zoomを使っていると、自分がどんなトーンで話をしているのかも確認することが簡単です。

Zoomには、録画をする機能があり、簡単に撮影、確認ができます。授業の振り返りもできるのですが、私は、これで意識していないときの声に気付くことができました。操作をしているときなど、いつもとは声のトーンが落ちていたのです。

動きはどうかな？（動き編）

カメラの位置にもよりますが、意外と手元を映すことは、意識をしないとできません。

子どもたちが入ってきたとき、ステキな笑顔と安心できる声。さらに付け足したいのは、動きです。「いらっしゃーい！」「ここにちはー！」と、手をパーにして、顔の近くで振りましょう。明るい感じが伝わってきませんか？

私は、低学年だったので、さらにパペットと一緒に画面に映ることもしました。ただのぬいぐるみでもいいと思います。子どもたちにも人気のキャラクターだと親近感が湧いて、さらに楽しい雰囲気をつくり出すことができるかもしれません。そのキャラクターから、自然に話が始まっていきます。

話しているうちに、いつの間にか、オンラインが気にならなくなっているかもしれません。常に「聴いているよ」という頷きも意識するとさらに温かい雰囲気になると思います。

オンラインでも学級と同じに

何か問題が起きたときやトラブル、失敗があったときの対応は、オンラインでも学級と同じでよいと思います。

トラブルや失敗は、逆にチャンス。そこから、何を学ぶことができるのか、大切にしたいことはなんだろうかを考え、子どもたちと一緒に解決しましょう。

やっぱり、言葉を交わすことが基本

登校したら、あいさつします。オンラインでも同じです。オンラインに入ってきたら、大人も子どもも「おはようございます」とあいさつします。

ミユートが基本だと、友だち同士でのあいさつがしにくくなります。誰かのあいさつに対して、「反応をする」のボタンでリアクションをしたり、手を振ったりすることをすすめていきましょう。

教室と違って、誰もが前を向いている状況だからこそ、反応しているのがよくわかるので、気持ちのよい空間になると思います。

また、オンラインに入るときの体調をポーズで示すのも楽しいです。子どもたちと一緒に、元気のときはオッケーポーズ、いいことがあったときには両手でグッドサイン、嫌なことがあったらバッテンポーズなどを決めておくと、そのサインを元にして、朝の対話のきっかけをつくれると思います。

禁止せずに、楽しい企画に変える

Zoomをしていると、どのクラスでも同じような問題が出てきます。それは、「共有画面での落書き問題」と、「チャットが荒れる問題」です。

それらに対して、どう対処していくのかを事前に、教員間で共有することをおすすめします。学校として、もしくは教師として何を大

にしたいのかということにもつながっているからです。

それぞれの問題は、Zoomの設定でできなくすることは可能です。でも、私は、そうはしたくありませんでした。

子どもたちは（人は）、できることはやってみたいものです。できるようになることは、うれしいものだからです。そんな子どもたちの気持ちに寄り添ってみると、設定で禁止するだけではなく、違う対応がとれると思いました。

たとえば、「お絵かき機能を使って、どんな楽しいことができそうかな?」とか「チャット機能を使って、楽しいことができないかな?」と、楽しむためのツールに変えてしまうのはどうでしょうか。

そうすると、共有画面での落書き問題から、「お絵かきタイムがほしい」「お絵かきコンテストをしよう」「お絵かきしりとりをしよう」「何を描いているか当てようゲームをしよう」という、アイデアが出てくることもあるでしょう。

チャットが荒れる問題は、「チャットでしりとり」「みんなでいいところを伝えようの会」「早押しクイズならぬ早答えクイズ大会」「何でも好きなことを書く会」など、アイデアが集まるかもしれません。

こうやって、問題を解決していく過程がとても大切です。クラス全体で、「みんなが居心地のいい空間をつくる」という目的意識を持つことで、問題をチャンスにして、よい雰囲気がつくれると思います。

(沼尻 淳)

4

色を集めよう！

家にあるものを活かして身体を動かす

教師が示した色のものを家で探すあそびです。オンラインに慣れないうちから、低学年から高学年まで、簡単に行うことができます。身体の動きが伴うあそびは、子どもの心をほぐすのにもってこいです。

オンラインでは、教室での授業のように全員に同じものを揃えようとすることは難しいですが、それぞれの子どもの家にあるものを活かそうとするとさまざまな楽しい活動を考えていくことができると思います。学校とは異なる子どもの新たな一面も発見できます。

難易度を変え、とにかく声をかけ続ける

初期に行うなら、不安を感じず全員ができるように時間制限なしでゆっくりと行うのがおすすめです。

子どもが慣れてきたら、時間制限や個数、色を複数にするなど難易度を上げたり、ブレイクアウトルームで班ごとに色を決めて集めたりするのも楽しいです。制限時間をつけた場合は「せーの」で一斉に持ってきたものを見せ合うほうが盛り上がります。

また、待っている時間は子どもたちに声をかけ続けます。教師も楽しみながら、いっぱい話しかけましょう。

具体的な手順

①ルールを説明する。

教 师：部屋をぐるっと見てみて。いろいろな色があるよね。今からある色のものを画面の前に持ってこよう。

②教師が合図を出す。

教 师：準備はいいかな？ OKの人はいいねマークしてね！

子ども：(いいねマークやポーズ)

教 师：持ってきてもらう色は…、赤でーす！！

(慣れてきたら、子どもが出題者になる)

③持ってきた人から画面に見せる。

④全員が揃うのを待っている間、子どもたちが持ってきたものについて教師が声をかけていく。「〇〇とかおもしろいね」「〇〇さん、それ何持ってきたの？教えて」「赤鉛筆もそうだね！」

⑤全員揃ったら、改めて全員でその色のものを画面に見せる。

⑥インタビュー形式などで、感想を伝え合う。



子どもが家にあるものを持ってきて自己表現できる！

(山手 俊明)

3

聖徳太子ゲーム

聖徳太子ゲームとは

言わずと知れた日本史上の偉人、聖徳太子。彼は同時に8～10人（諸説あります）から話しかけられても、それを聞き取って個別に返答してきたというエピソードがあります。

聖徳太子ゲームとは、疑似的にその状況をつくり出し、いかにそれが難しいか体験しつつ、達成できたら「君も今日から聖徳太子！」感を味わうゲームです。

単語を推測しててる！

プレイヤー側と発問側に分かれます。プレイヤー側は各自が聖徳太子を目指して個人で問題を解きます。

発問側は4人程度のグループです。ホストの「せーの！」というかけ声とともに、発問側がスケッチブックに1文字だけ書かれた文字を一瞬だけ見せます。

すると、たとえば、画面に「い」「だ」「ん」「こ」が同時に1文字ずつ見えます。プレイヤー側は、うまくそれを並べ替えて、その単語が何であるかを当てます。この場合は「だいこん」という単語がわかったら正解です。

具体的な手順

- ①子どもたちはスケッチブックと太めのペンを用意する。
- ②ブレイクアウトセッションの機能で、ランダムの3～4人グループに分ける。
- ③グループで相談し、人数に合わせた文字数の単語を決める。各自が1文字ずつスケッチブックに書く。
- ④ホストは全体会に戻す前に、あらかじめ各セッションを回り、「ここが1班だよ」と順番を伝えておく。
- ⑤セッションが終わり、全員が戻ってきた後、ホストが「1班、せーの！」と声をかける。1班の子は書かれた1文字を2秒だけ画面に見せる。
- ⑥プレイヤーは、直前まで誰が発問側なのかわからず、最初は画面のどこを見ればよいかわからないのがポイント。一度ではわからないことが多いので、何度も繰り返す。正解がわかったら、個別チャットでホストにだけ解答を伝える。



正解がわかるまで何度もチャレンジしてみよう！
(やまだ しょう)

ある日の オンライン学習の 様子

ある日のオンライン学習の様子

ある日のオンライン学習の一コマです。朝、授業支援アプリを通して配信されたその日の課題を確認する子ども。自分のペースで、数時間分の課題をこなし、困ったことがあれば教師が立ち上げるZoom相談室で質問。夕方までに、その日の学習の成果物（ノートやプリントの写真など）をオンラインで提出。

しばらくたつと、先生からのコメントが入ったものが返却され、それを見ながら思わずにっこり……。

オンライン学習によって、子どもたちの学び方は大きく変わりました。でも、取り組んでいることは普段の教室とそれほど変わりません。

「課題把握」「自力解決」「提出」などはオンライン学習でも実現が可能であり、子どもたちの学び方の幅は大きく広がりました。

子どもたちの声

「自分のペースで学習を進められたのがよかったです」
 「先生方の授業動画がおもしろくてわかりやすかった」
 「Zoom を使ってグループワークをしたのが楽しかった」
 「困ったときにZoom で相談することができたので、安心して取り組めた」

「ノートの写真を送ったあとに、コメントを入れて返してくれるのうれしい」

休校後、オンライン学習についてアンケートをとってみると、このような声がたくさん届きました。多くの子どもたちは、オンライン学習について、「友だちや先生とつながれたこと」や「先生から励ましの言葉をもらえたこと」「先生方の工夫を凝らした課題」等を、楽しかったことやうれしかったことに挙げていることがわかります。

オンライン学習を進めるために尽力してきた私たちにとって、それは最高のほめ言葉となりました。

オンライン学習で大切にしたい「学びの要素」

オンライン学習で大切にしたい「学びの要素」は多岐にわたります。たとえば、学びを止めないための「知識獲得」の要素は、この状況下において最も優先される要素です。

しかし、知識を獲得させることだけを目的とせず、子ども目線で考えることも大切です。そのためには、教師が何を学ばせるかよりも、「子どもがどう学ぶか」「子どもがどうしたいか」に思いをめぐらせることがポイントになります。

そこで、今回の状況下において大切にした学びの要素があります。それは、次にある「意欲」「関わり」「相談」の三つです。

意 欲：子どもが学習内容に興味ややる気をもてること

関わり：子どもが友だちと関わり合いながら学ぶこと

相 談：子どもが必要に応じて学習の相談をできること

Zoom やロイロノート、Google Classroom などを活用しながら、これらの要素を意識したオンライン学習を進めていくことが、先述した子どもたちの声につながっていきます。

（椎井 慎太郎）

1

オンライン授業が長引いてしまう

オンライン授業の時間感覚

普段行っている対面の授業に比べて、オンラインの授業では時間の配分が難しくなります。教室で児童の手元が見えるときは、だいたいあとどれくらいで完了するか見通しが立てられますが、オンラインでは同じようにはいきません。

下を向いて手を動かしている子どもが多く映っていると、「あ、もう少し時間取ったほうがいいかな」と思ってしまうものです。その感覚に任せていると、なかなか思った時間どおりに終了しなくなってしまいます。

家庭学習で行うこと

上記のように、思いのほか、時間がかかるてしまうだけでなく、オンライン授業での時間の制約は大きいものでした。画面を長時間見ることで視力や集中力への影響が心配され、私たちの学校では授業時間を通常よりも短くしてオンライン授業を開始しました。

一コマで終了しないときは、二コマにわたって行うなどの調整も行いましたが、短い時間でも完結できるような工夫をします。

たとえば、自分の意見をまとめるというような、まとまった時間を要するものは宿題で行うようにしました。そして意見を発表するとこ

ろを動画に収め、Flipgridでアップロードするところまでを、各自が行う課題にしました。

そうすると「みんなの意見を聞く機会がなくなるのではないか」という懸念も生まれますが、授業で時間を設けなくても、子どもたちは友だちの投稿をよく見ていました。

ほかの子どもの投稿にメッセージをつけたり、すでに公開された動画を参考にして自分の動画をつくったりして、教室で行うのと遜色なく取り組んでいました。

ほかにも、ノートを取る時間をあえて設けず、考えることに焦点をあてて授業することもできます。

「ノートを取る時間は取りません。授業後、先生が黒板に書いた内容を皆さんに共有します。ノートをまとめるとときは、それを参考にして書けばいいので、授業時間は思考を優先して、どんどん発言しましょう」

このように説明すれば、子どもたちは考えることに集中できます。板書内容をデータ化してGoogle Classroom等に掲載し、ノートにまとめることを宿題にすることもできます。

授業で行った内容を、時間を置いてからノートにまとめると、学習内容の全体を俯瞰することにもつながります。

授業で何を重視するか

オンライン授業を始めた当初、とくに低学年では「教科書〇〇ページを開きましょう」「開いたかな?」「開いた人はOKサインしてください」と、子どもへの指示をゆっくり行うこともありました。

だんだん慣れるにしたがって、丁寧な導入も不要になっていきます。始めの段階では配慮も必要ですが、結局は授業で何に重きを置くかを意識することが大切です。

(中村 健人)

3

オンラインでの いたずら

ちょっとしたいたずら

普段の学校生活でもちょっとした友だちとのもめごとは起こりますが、オンラインだからこそ起ったものももちろんあります。とくにオンライン授業を開始した頃に多かったのが、「友だちのマイクを勝手にミュートする」といういたずらでした。

私たちが使用している会議ツール Google Meet では、参加者がほかの参加者をミュートにできる機能があります。もとはハウリングを防ぐためのものですが、それが悪用されてしまったのです。

何のための集団授業か

この頃は初めて使うツールを「押したらどうなるかな」と試してみたくなっただけ、という動機がほとんどでした。始業式で校長先生のマイクをミュートにするという事例もありました。

これは一度注意すれば收まりましたが、その後も発言中の友だちのマイクをわざとミュートにする行為が何度もありました。ふざけて行ったものについては毅然と注意します。

しかし、「授業に関係のないおしゃべりを始めたからミュートにした」という、授業の進行を考えての行動もありました。その子どもなりにほかの友だちや授業のことを思いやって行ったものなので、ただ

叱ることは避けたいものです。私は、みんなで学ぶ意味に結びつけて話をしました。

「今の〇〇さんの発言は、確かにただのおしゃべりみたいだった。でもね、その発言がきっかけになって、もっと学びが深まることもあります。みんなが一緒にクラスで勉強する意味は、ここにあるんじゃないかな。誰かの気付きがきっかけになって、ほかのみんなも勉強になる。全員分の気付きを大事にしたら、もっともっと勉強になるよね」

その後は、子ども同士でもルールを声高に言うだけの注意でなく、「〇〇さんが話している途中だから、ミュートしないで」と、意味のある指摘ができるようになりました。

オンライン授業のルール徹底

オンラインでは、複数の子どもが同時に話してしまうと聞き取れなくなってしまいます。そのため、発言したいときはカメラに向けて挙手をするというルールをつくったものの、教室と同じように大きな声で「はい！はい！はい！」と言って存在を示す子どももいました。

そうなると、ルールをきちんと守っている子どもの発言が少くなり、「自分も発表したいのにするい」という不満につながる事例もありました。

そこでクラス全員にルールを守ることを説くとともに、発表したいと思って声を出す人も、ルールを守って発表したいと思う人もいるということを確認しました。

自分の思いを全面に押し出すだけでなく、他者の目線に立って考えるということをお互いに学ぶきっかけとなりました。

(中村 健人)